



青少年赤十字だより③

R4.2.10 (木)



青少年赤十字活動は世界169か国の学校教育の中に位置づけられ、その活動は先生が指導者となって展開されています。赤十字の精神は、誰もが持っている優しい心を周りの人たちに分けてあげることです。せっかく備わっている優しさを使わないと何にもなりません。身近にいる先生や親が見本となり、“気づき、考え、行動する力”を子どもたち自身が生きる力として育てていけるよう応援したいと思います。



新型コロナウイルス感染症を防ぐために 日常生活の中で取り組んでいること



0～2歳児

0～2歳児はまだ幼いので、自ら予防することは難しいですが、保育者と一緒に「ばい菌バイバイしようね」と手洗い・うがいをしています。また、おもちゃを始め、室内の手が触れるところを毎日消毒し、換気には特に気をつけ、感染防止に努めています。季節柄、他の感染症も流行しやすい時期でもありますので、衛生面には十分配慮しながら安心して過ごせる環境づくりに心掛けています。

年少児

コロナウイルスのニュースを連日テレビで観ることで、遠くに住む人に目を向けられるようになり、登園してくると「東京がね…」と口にする子どももいます。コロナウイルスに感染しないよう、毎日「1、2、3、4……30」までの数を数えることで、丁寧に手洗い・うがいをする習慣が身につき、数遊びにも発展しています。うがいとマスクの大切さが根付き、風邪を引く子どもが少なくなっているのがわかり、嬉しく思います。

年中児

家から持参してくる緑茶でのうがいをより念入りに行い、マスクを着用して、衛生面にも気を配りながら過ごすようにしています。「どうしてマスクをするの?」「なぜ手を洗うの?」とコロナウイルスを意識するようになりました。また、先生に言われなくてもゴミを拾ったり、お茶をこぼしたときは自分で拭いたりする姿が出てきました。みんなが感染しないためにも、身のまわりの小さなことに気が付けるよう、先生も一緒に取り組んでいます。

年長児

“気付かせる・考えさせる・行動させる”といった先生の声掛けを転換させ、子ども自らが気付く力を育てる『帰りの会』でありたいと毎日の積み重ねを大事にしています。その日を振り返る時間を設けることで、仲間を意識し、思いやる優しさから友達の良いところを認めてあげられるようになりました。また、コロナウイルス感染症にならないために“自分の体は自分で守ろう”と手洗い・うがいをしっかりし、マスクを鼻までつけようとみんなで声を掛けて取り組んでいます。そして、自分の持ち物や使った物の片付けや元気よく戸外遊びをすることで、体力向上にも繋がっています。

毎月 20 日は収集活動日です！
みんなの優しい心を広げましょう♪



一人の力は小さいけれど、
みんなの力を合わせると
大きな力になるんだよ！

< 一円玉マン



各クラスの担任を中心に行っているこの活動は、回数を重ねていくごとに定着しつつあります。
一円玉は日本赤十字社山梨県支部へ、発展途上国の恵まれない子ども達の学校教材として。
エコキャップは、中央市で取り組む発展途上国の医療貢献のお手伝いとして。
そして牛乳パックは園独自で取り組んでいるリサイクル活動として、
毎日子ども達の使うトイレトーパーと交換します。
一円玉はフィルムケースを活用して下さい。(金額ではありません)

